地域研究年報　**41**　2019　161–175

伊那市における宗教施設の維持と活動の変容
－寺院・神社・教会の活動を通して－

川添　航・平澤賢剛・Zou Siqi

本研究は，長野県伊那市における４宗教の活動について，地方都市における人口減少・高齢化の影響との関わりから検討した．伊那市が位置する上伊那地域における宗教の展開を概観すると，仏教寺院においては長野県全体の傾向と同じく曹洞宗寺院の割合が比較的高く，キリスト教教会においては戦後以降に伝道が行われ展開していった．現在の状況をみると，仏教寺院や神社の檀家・氏子は大多数の世帯が施設の周辺に分布しており，キリスト教教会や天理教分教会は，日常的な礼拝においても広域な範囲から信徒が訪れている．施設ごとに行われている活動においては，地域における檀家にとっての文化的活動の拠点となっており，転出した檀家や氏子，信徒を地域とつなぎとめるという役割を持っていることも明らかになった．地域との関係性を意識した非信者を対象とした活動も，講演会や社会福祉活動など様々な形で実施されている．僧侶や牧師などの宗教者は，地域における人口減少・高齢化や，ライフスタイルの変化による宗教施設への訪問の減少を10年~15年前から認識し始めており，それらの課題への対応については現在も宗教施設の在り方も含め模索を続けている．伊那市における宗教施設は，新しい役割を見出すことで地域における文化的な拠点として維持存続を図っているといえる．

キーワード：宗教施設，社会的役割，仏教寺院，キリスト教教会，天理教分教会，伊那市

Ⅰ はじめに

Ⅰ－１　地域社会の変容と宗教

地方都市における少子高齢化や人口流出は，生産年齢人口の減少による地域内の産業の停滞，１人暮らしの高齢者の増加や核家族化による地域コミュニティの希薄化など，社会経済的に様々な影響を地域社会に与える．これらの影響は，地域社会における宗教活動に対しても例外ではない．例えば仏教においては，若い世代の都市への流出による地元寺院との関係性の断絶，檀信徒の減少が課題となっている（櫻井，2017）．檀信徒にとっては死者の供養に際しての役割は現在も重要視されている一方，従来の寺檀関係の解体が指摘されている．

近年の宗教学諸分野においては，宗教施設の存続について分析する際に，新たな着眼点としてそれらが有する社会的役割が注目されている．それらは，“宗教に社会的絆や活力の創出を期待し，その先駆的事例の調査や宗教の互恵的な理念や倫理がどのように社会形成に役立つかを理論化しようとする試み”とされており（櫻井・濱田，2012），宗教施設がもつ社会関係の維持や地域コミュニティの拠点としての機能に注目し，宗教施設の維持においてその機能が重要となることを指摘している．これらの宗教が持つ社会的役割についての議論は，宗教施設と地域社会との関係性についての分析を主軸に行われている．地域社会と宗教施設の相互の影響については，家族構造の変化や都市化などの影響について扱った森岡(1975)など，宗教学，宗教社会学において主要なテーマであった．

また宗教地理学においても，地域社会と宗教の関係についての研究蓄積が進んでいる．たとえば

藤村（2005）は，宗教施設と社会集団の関係性に着目し，社会構造の変化などによって宗教施設の位置づけや役割が再生産される過程を明らかにした．また卯田ほか（2013）は，浄土真宗を基礎においた講組織と村落社会の構造との関係性に着目し，現在まで講組織（村御講）の活動が維持されてきた要因として，地域社会の特徴が影響していることを指摘した．また益田ほか（2015）は，地域社会における仏教寺院が持つ機能に着目し，これまで宗教施設の機能に着目した地理学的研究の蓄積の薄さを指摘し，寺院を基礎としたコミュニティの役割について論じた．一方で，川田（1989）は，宗教地理学における研究の中で，キリスト教についての蓄積の薄さを指摘した．数少ない研究群についても，研究対象地域の孤立性について批判しており，複雑な都市内部における宗教体系の研究の必要性を主張した．川田の研究以降，これらキリスト教（系新宗教）の展開に注目したものとして，竹村（2000）や阪野（2008）などが蓄積されてきた．

ここで既往研究を概観してみると，多くの研究が単独の宗派・教派のみに注目したものである．地域内における複数の宗教に注目し比較検討を行ったものは，三重県東紀州を対象とし仏教，金光教，天理教，創価学会の４宗教の展開に着目した藤村（2001）や，新潟県における各宗教施設の分布から宗教空間の分類を試みた松井（1993）など少数である．本研究においても，複数の宗教を対象とし比較を行うことで，多様な宗教組織が地域社会の変化に対応し，どのようにして現在まで活動を維持させてきたのかという点について分析する．それぞれの特徴や差異を踏まえた考察を行うことで，地域社会と宗教の関係を総合的に検討することが可能となる．

Ⅰ－２　研究目的と方法

本研究においては，長野県伊那市における宗教施設を対象として，人口流出や少子高齢化などといった地域社会の変化にどのようにして対応し，宗教施設の維持・存続を図ってきたのかについて検討する．

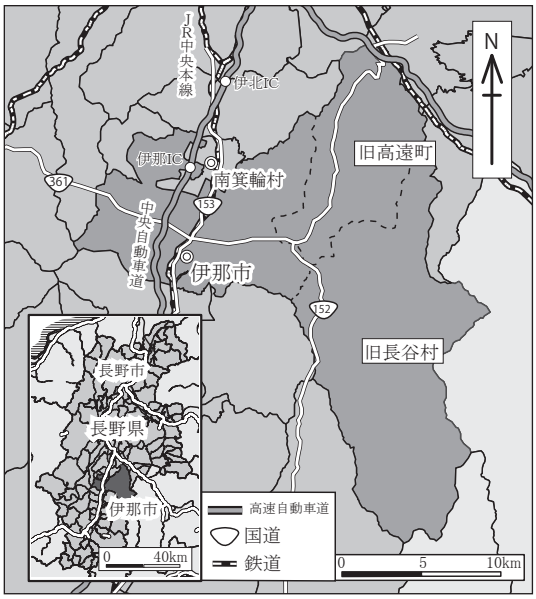
研究方法として，長野県宗教法人名簿などの資料から，対象とした宗教施設の歴史的・空間的な展開について分析した．また，伊那市内の仏教寺院，神社，キリスト教教会，天理教分教会を対象に，各宗教施設の活動状況や檀家・信徒との関わりや課題について聞取り調査を実施し，結果について分析を行った．また，仏教および天理教については，それぞれの宗教施設を地域ごとにまとめて形成される地域組織に対しても同様の聞取り調査を行い，地域社会の変化においてこれらの組織がどのような対応を行い，活動を変化させてきたのかについて検討した．

以下，Ⅱ章においては，上伊那地域における宗教施設の展開について，長野県統計や文献資料を用いて整理する．Ⅲ章において個別の宗教施設の活動や取り組み，および地域単位でそれらを統括する地域包括組織の活動について，聞取り調査で得られた結果を整理し分析を行う．Ⅳ章においては，Ⅱ章及びⅢ章の分析を踏まえ，伊那市を中心とした上伊那地域における地域社会と宗教施設の活動とのかかわりについて考察する．

Ⅰ－３　研究対象地域

研究対象地域とした長野県伊那市は，県南部（南信地方）・上伊那地域の中央部に位置しており，面積は688㎢，人口は68,400人（2018年９月）である．中央自動車道，およびJR飯田線が市内を縦断しており，東京都や名古屋市などの大都市へは自動車を利用し３時間程度で到達することができる（第１図）．市内中央部を縦断する天竜川周辺には農用地が広がっており，水稲やリンゴ，ブドウ，花卉などが栽培され，味噌や寒天などの食品産業も盛んである．主要幹線道路沿いには製造業事業所が立地し，電気機械や精密部品などを製造している．

伊那市を含む上伊那地域においては，関東・中京圏への人口流出，および少子高齢化が進行している．中心都市である伊那市においてもそのような状況は例外でなく，2017年10月における市全体



第１図　研究対象地域.

での高齢化率は31.0％に達している.

特に市東部の旧高遠町・旧長谷村両地区においては独居老人が多く居住しており，高齢化率は37.4％に達している．20歳代人口は大幅な転出傾向にあり,生産年齢世代の転入も減少傾向にある．これらの状況において，市内では高齢者の孤立化を防止するため，社会関係の維持や介護を目的とした拠点施設の整備を実施している.

Ⅱ 長野県上伊那地域における宗教施設

Ⅱ－１　上伊那地域における宗教施設の歴史的展開

上伊那地域の中でも，現伊那市域は杖突街道や秋葉街道，権兵衛街道など諸街道が交差する地域であり，天竜川・三峰川においては舟運も盛んに行われていたことなどから，かつては南信地域における交通の要所であった．これらの地域的特徴から伊那市を含む上伊那地域には様々な文化慣習や宗教信仰が流入した.

１）仏教および神道

国内においては，仏教・神道の位置づけは常に変化している．その変化は大きく近世以前，明治期・戦中，戦後に大別できる．近世以前は，仏教は幕府統制下におかれ，本末制度や寺壇制度を通じ地域の管理を行う機能を持っていた.

明治期以降には神道の国教化が推進され，それまでの寺請制度も廃止されるなど，仏教・神道をめぐる位置づけは大きく変容した．神道においては，1906年より開始された神社合祀政策により，神社の合併や昇格などの再編が進んだ．また，神社の運営は国家，及び地方自治体によるものとなり，行政が財政的負担を負うこととなった.

上伊那地域においては，中世後半に仏教寺院が地域内に浸透し，また同時期には諏訪神社の分社が行われるなど，仏教および神道の２宗派が伸長した．住民の間でも２宗の習合が進み，集落の信仰の中心として神社が建立され，各家庭が氏子となる一方で，多くが居住地域内に菩提寺をもち，その檀家にもなっていた．中島（2001）によると，上伊那地域では武士階級や豪商など地域の有力者は浄土宗を信仰し，禅宗である曹洞宗は下級武士や農民，商人への布教により浸透をはかった．これら社会階級に対応した布教により，上伊那地域においては近世以前に様々な仏教宗派が展開した．幕末期から明治初期においては，平田篤胤の影響を受けた復古神道が流入し，寺院と関係を絶って神道式の葬儀（神葬）を行う神社や信者も増加したとされる．長野県内では1907年に神社合併に関して訓令が公布され，上伊那地域においても1907年から1909年にかけて地域内の神社の統合・整理が実施された．また，廃仏毀釈の影響が松本や諏訪地方を中心に現れた．同様に上伊那地域の仏教寺院の中にも，廃寺や無住寺が生じた．一方で，歳時記に基づいた行事や，地域の民間信仰と結びついた仏教行事などは現在も続けられている．戦後以降においては，寺院や総代会（護持会），婦人会など寺院組織の制度化が1950年代を中心に進み,現在ではこれら組織が一体となって，各寺院の行事が行われている（伊那谷仏教歳時記編集委員会，1988）.

2）キリスト教

伊那・高遠地域におけるキリスト教の発展について研究を行っている塚田博之は，当地の所領者であった京極高知の受洗を発端とし，上伊那地域を“明治以前からキリスト教との関連の強い地域”であったと称している（塚田，2001）．1873年の禁教令解消以降，国内にはカトリック，プロテスタント両教派の修道会・伝道団が来日し，横浜や東京，長崎などを拠点に布教を開始した（川田，1989）．長野県内においても1877年に現松本市内において日本基督公会の教会が設立され，以降は安曇野，松代方面へ伝道が進められるなど，松本地域を拠点として広範囲への伝道が行われた．

また1880年には現飯田市に教会が設立され，南信地域においても伝道が開始された（塚田，2000）．上伊那地域においては，1879年に高遠で伝道が開始されたが，松本・飯田の２拠点から集中的な伝道が行われたのは1882年以降であった．1884年には，これらの布教活動によって現伊那市坂下に「伊那美以教会」が，旧高遠町内に「高遠美以教会」が設立された．「伊那美以教会」は1890年に教義上の理由から２派に分裂し別の教会堂「坂下講義所」が設立されるなどしたが，「伊那美以教会」は1907年に「日本メソジスト伊那教会」に改称し，さらに1941年のプロテスタント教会33派の合同による日本基督教団の成立によって，「日本基督教団伊那坂下教会」となり現在も活動を行っている．「高遠美以教会」はその後も地域で禁酒運動を主導するなどしていたが，1936年頃に解消したと推測される（塚田，2000）．

大正期には全国的なリバイバル（信仰復興）が発生し，プロテスタント各派の布教活動が上伊那地域において積極的に行われた．この時期には，聖公会やフィンランド・ルーテル教会が流入し，伊那市の近隣市町村にも現在まで残る教会が設立されている．戦後も，1949年に家庭集会をもとに市内に伊那カトリック教会が設立され，1952年にエヴァンジェリカル・アライアンス・ミッションの宣教師によって伊那聖書教会が発足した．1977年には，伊那福音教会のもととなった塩尻教会伊那伝道所が設立されるなどした．以上のように，上伊那地域においては明治初期から伝道が進んだが，市内において現在も活動を続ける教会は，戦後に設立されたものがほとんどである．

3）天理教

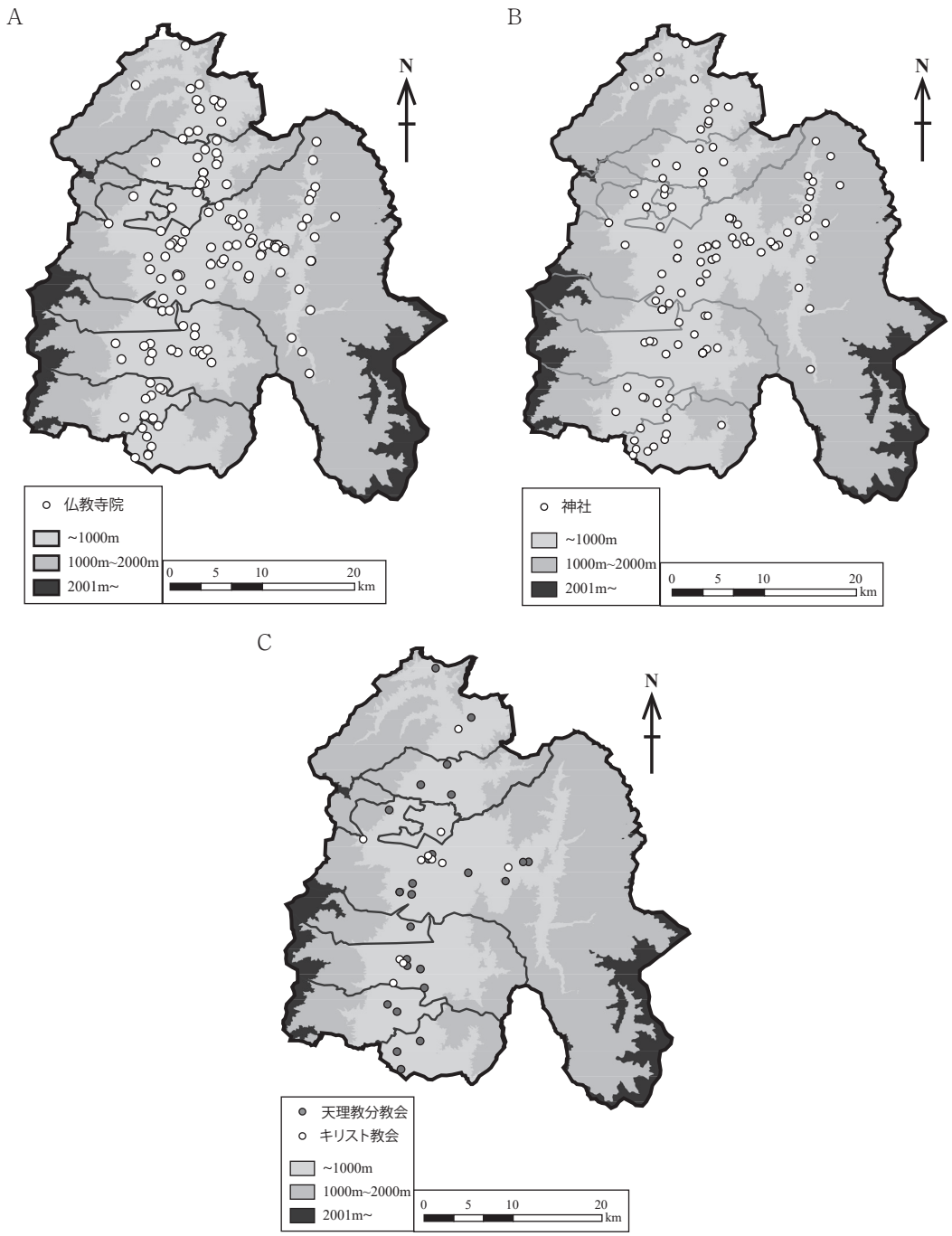
早田（2013）及び上伊那誌編纂会（1967）によると，長野県への天理教の布教は，静岡県や山梨県，埼玉県など長野県を取り囲む近県に位置する教会から行われた．天理教においては，1887年以降，教会本部の設置と同じくして全国的な伝道も盛んに行われ，1888年には２か所であった教会が，1896年には1,348か所となるなど教会の設置が盛んにおこなわれた．上伊那地域においては1891年に辰野町で布教が開始され，その後，1892年には三重県・津大教会所属の布教所が高遠に開設され活動を開始した．1893年には下伊那郡片桐村に伊那支教会が設立され，この支教会を足場とし伊那市山寺に伊那町出張所が開設されるなどした．またそれらに対する反対・抗議活動も他県より厳しく，大正期までは教会の数も少なかったとされる（早田，2013）．

以上のように，明治期以降には上伊那地域においても，キリスト教などの外来宗教や，天理教などの新宗教が伊那市や旧高遠町の市街地を中心に流入し，盛んに活動を行っていた．

Ⅱ－２　上伊那地域における宗教施設の分布

上伊那地域における宗教施設の空間的な分布について，『長野県所轄宗教法人名簿』をもとに分布図を作成した[2)]（第２図）．また，同地域における近年の宗教施設の展開について，『長野県統計書』から整理した[3)]（第３図）．

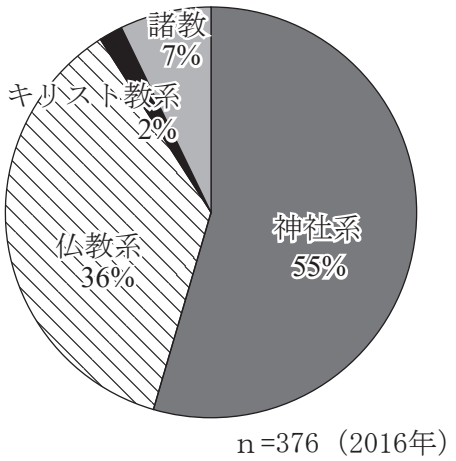
第２図をみると，仏教寺院，神社は平野部だけでなく山間部にも分布しているのに対して，キリスト教，天理教は平野部のみに分布が集中している．このような分布の背景として，仏教や神道は近世以前より地域社会と密接に関わっており，人々は各居住地域の寺社の檀家，氏子であったため，地域全体に分布していると考えられる．一方



第２図　伊那市における宗教施設の分布.

（『長野県所轄宗教法人名簿』より作成）

※神社の分布について，住所が不明で位置情報が得られなかったものについては表示を省略している.



第３図　伊那市における宗教法人数，
および構成比
（『長野県統計書』2016年版より作成）

キリスト教，天理教は明治期以降に布教を行い始めたため，集住している平野部に限定して分布していることがわかる．

戦後の長野県における宗教法人総数の推移をみると，大きな変化はないものの緩やかな減少がみられるが，1972年以降際立った宗教施設の増減はみられない．一方で，各宗教別施設数の内訳をみると全国的な傾向と同様，神社および仏教寺院が約９割とその大半を占めている（第３図）．またキリスト教や，天理教を含む諸教[4)]に関しても，戦後期においては宗教施設の微増がみられた．特に上伊那地域における割合をみると，仏教においては全国的な割合と比較して，県全体の傾向と同じく禅宗の割合が著しく高く，全体の約６割を禅宗が占めている（第４図）．神社や仏教寺院は旧高遠町や旧長谷村の山間地域にも立地している一方で，キリスト教教会や天理教分教会においては，旧伊那市域を中心とした市街地を中心に立地している．

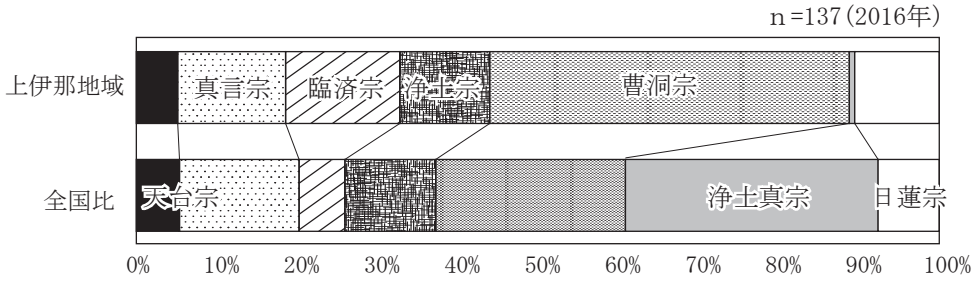
Ⅲ 長野県伊那市における宗教施設の活動

伊那市における宗教施設の活動について，４宗教の施設計14か所に聞取り調査を行った．本章においては，その結果を整理することで，各宗教施設における活動の現状や，檀家・氏子・信徒，また地域社会と宗教施設がどのような関係性にあるかを検討する．

Ⅲ－１　仏教寺院

１）仏教寺院の活動と地域社会との関わり

伊那市内における各寺院の取組みについて，市内の４か所の寺院に対して聞取り調査を行い，結果を第１表にまとめた．主にどの寺院においても婦人会や講演会などの活動が行われており，このような活動は檀信徒と寺院との接点となっている．特に「梅花流」とよばれる御詠歌の講習は，聞取りを行った各寺院において盛んに行われている．仏教婦人会における例会では仏前礼拝や法話，舞踊，御詠歌や親睦会等が盛んに行われており，また講演会や年中行事として法要も実施されるなど，地域の高齢者にとって社会関係を維持する役割を持っているといえる．また，夏季や正月に，転出した世帯が寺院に訪れ法要を行うなど，伊那



第４図　上伊那地域における仏教寺院の宗派別構成比
（『長野県統計書』2016年版より作成）

第１表　寺院の活動

施設名	施設所在地	宗派	檀家世帯数	信徒の居住地	主な活動	頻度	内容	参加者
Ａ寺	高遠町勝間	曹洞宗	400世帯	檀家の多くは旧高遠町・長谷村域に所在，少数は旧伊那市域にも檀家がいる．	婦人会	隔月	本堂で読経，講話や茶話会などを行う．活動は年に6回，偶数月に行われる．	40人程度，年齢層は70代から90代．
					総代会	年4回	地区ごとの輪番制で，会長・副会長・会計を任命する．実際の集会では，イベントの告知や境内の環境整備，お布施の管理などを行う．	地区ごとに1，2人
					御詠歌	―	梅花流御詠歌の練習や作法の指導などを行う．	15人程度，年齢層は70代から90代．
					本山参拝	隔年	本山である永平寺（福井県永平寺町）に団参し，見学を行う．	60人程度，案内を出し参加者を募集する．
Ｂ寺	伊那市西町	曹洞宗	400世帯	旧伊那市域・南箕輪村を中心に所在しているが，100世帯程が遠隔地に所在している．	護寺会	―	全檀家が加入する，その中から地区ごとに30世帯程が選ばれ，総代会として行事の運営などを行う．	
					婦人会	月2回	御詠歌の講習会等を行っている．	―
					写経会	―	寺院で写経を行う．	30人程度が参加している．護持会や婦人会のメンバーが参加している．
					ボランティア活動	―	曹洞宗が主催するボランティア活動に参加しており，Ｂ寺でも資金援助や婦人会による現地語の絵本の寄付などを行っている．	―
					座禅会	週1回	―	7，8人程度
Ｃ寺	伊那市美篶	曹洞宗	500世帯	伊那市美篶を中心に檀家が居住している．	婦人会	月1回	読経を行った後，講話，梅花流御詠歌の練習を行う．写経を行うこともある．御詠歌の練習を行う際には，他寺院から指導者を呼んでいる．梅花は涅槃会や大般若祈祷法要等で披露している．	30人程度．例会の参加者は増加している．
					総代会	月1回程度	年会費の徴収や境内の整備を行う．行事を行う際に会合を行い，補助や案内の配布を行う．	24人，70代位が多い．
					その他の活動		涅槃会では，近隣の保育園の児童を呼ぶ．また，曹洞宗教区の活動として，1泊2日で子供たちに寺で座禅体験をしてもらう「子供禅」の活動を行っている．	60人程度．
Ｄ寺	高遠町西高遠	浄土宗	300世帯	旧高遠町・伊那市域に半数程度の檀家がいる．関東地方や愛知県など遠隔地にも檀家がいる．	婦人会	月1回	御詠歌の練習などを行っている．御詠歌の大会が教区単位であるので，それらに出席する．	10人程度
					奉仕活動	年4回	檀家で集まって，清掃活動などを行う．	―
					講演会	隔年	講師を呼ぶか，住職が講話を行う．花祭りの際に開催する場合は，東部仏教会や護持会，婦人会との共催として行う．講演会だけでなく，音楽会として開催することもある．	―
					定例役員会	―	総代会が組織される．各町内から選出された総代が集まる．	28人

（聞取り調査より作成）

市を転出した檀家との関係性も比較的持続している．

旧高遠町に位置するＡ寺は檀家の範囲が広く，その末寺も多く有している．檀家世帯数は400戸であり，多くが寺院の位置する地区やその周辺に位置している．檀家の中には，東京都や名古屋市に転居した世帯もいるが，寺檀関係は比較的継続されている．檀信徒の活動においては特に婦人会の活動が盛んに行われ，内容は読経や住職の講話などであり40人程度が参加している．また，御詠歌の講習なども婦人会の前に行われることがあり，こちらにも15人程度が参加している．多くの信徒に寺院での行事や活動に参加してもらうため，手紙で通知を行うことや役職を設けないなどの工夫を行っている．また講話や茶話会も定期的に行っており，檀家以外の地域住民とも関わる機会を設けている．

Ｂ寺やＣ寺においても独自の取組みが行われている．Ｂ寺においては，宗派で企画されているボランティア活動に積極的に参加しており，婦人会などの檀信徒組織もそれらに協力している．Ｃ寺においては，婦人会の活動に加え，法要を体験してもらうため，近隣の保育園児童を花祭りに招く，曹洞宗長野教区の活動の一環として子供向けの座禅体験を企画するなど，幅広い年齢層を対象とした活動を行っている．また，寺院で行われる行事やイベントについての情報をホームページで発信するなど，寺院に訪問しやすいような工夫を行っている．

Ｄ寺は檀家世帯数315戸であり，近隣地域だけでなく，東京都や名古屋市に転出した世帯とも書簡やはがきで連絡を取っている．Ｂ寺の婦人会においても，御詠歌の講習や朝のお勤め（勤行）体験や婦人会主催の講演会が行われている．Ｄ寺の住職は，寺院は宗教施設のみならず，地域に積極的に活用される文化施設でもあるという認識を持っており，講演会を企画する際には，住職の講話だけでなく音楽会なども兼ねて開催されるなど，檀家・非檀家に関わらず，寺院への訪問者が増えるような活動を展開している．

以上のように，地域社会と密接な関係を有した仏教寺院は宗派に関わらず現在も多彩な活動によってその維持を図っている．一方で，当事者である僧侶の中には，15年程度前と比較し，地域社会における人口減少や高齢化，檀家の減少や若年層の寺離れに危機感を抱く住職もみられた．

2）地域仏教会の活動と位置づけ

上伊那地域においては，長野県仏教会の下部組織として上伊那仏教会が存在しており，宗派をこえ地域の寺院全体が活動を行なっている．国内には各宗派合わせ75,000程度の仏教寺院があり，それらを地域的に統合する組織として，都道府県や地方・地域ごとに組織された仏教会がある．上伊那仏教会はさらに北部仏教会，伊那仏教会，東部仏教会，南部仏教会の４つの支部会に分かれており，伊那市内の寺院はそのうち伊那仏教会，東部仏教会，北部仏教会のいずれかに所属している．３つの支部会の活動をみると（第２表），主な活動として，歳時記に基づく仏教行事の共催に加え，３支部会とも総代会や講演会，社会福祉施設における慰問活動を行っている．また，花祭り（降誕会）の法要や講演会においては児童保育施設や地域の檀家を積極的に受け入れている．

仏教会設立の目的である地域への仏教の普及を目指すための取り組みだけでなく，総代会や例会を通じ地域や各寺院の問題共有も行われている．各支部会においては既存の活動を地域における伝統的な文化活動として認識しており，寺院と地域住民との距離を近づけるような活動が実施されている．

Ⅲ－２　神社

神社は祭礼を通じて地域社会と関わりを持っている．伊那市には様々な規模の神社が広範囲に分布しているが，その中でも，伊那市西春近に位置し，現在まで諏訪信仰にもとづく御柱祭を実施している諏訪神社（西春近諏訪神社）と，旧高遠町西高遠に位置する鉾持神社の祭礼と地域社会との関係性，またその変化について聞取り調査を行った．

1）西春近諏訪神社の活動変容と地域との関わり

西春近諏訪神社は西春近地区内の「諏訪ノ森」と呼ばれる林地に位置している．地元の口伝によると，1394年，現在地の北方約150メートルの地で創立され，1427年の大洪水により社地が流出し現在地に遷座したとされている．年中行事として，年末年始に行われる神事や毎年10月の例祭，７年に１度実施される御柱祭がある．これらの祭礼の運営にあたっては，神社が立地する西春近地区はさらに細かい地域区分として５つの「班」に分割され，それぞれの班ごとに準備が行われる．2016年においては，西春近諏訪形地区245世帯のうち，182世帯が御柱祭に参加している．

西春近諏訪神社の御柱祭は地域全体で運営され，引手やその他関係者を含め1000人以上が参加

第２表　伊那市内における地域仏教会の活動

		東部仏教会	北部仏教会	伊那仏教会
加盟寺院の所在地		旧高遠町，旧長谷村，旧伊那市東部	旧伊那市北部	旧伊那市，南箕輪村，宮田村北部
加盟寺院数		26	33	29
主な活動	年中行事	高遠町内の寺院で，5月に花祭りの法要を行っている．地域の保育園の園児を招待している．	—	5月に花祭りの法要を行っている．市内の3か所の保育園・幼稚園を回り，園児向けに法要やレクリエーションを行う．
	慰問活動	高齢者への慰問として，旧長谷村の社会福祉施設で法要を行っている．	高齢者福祉施設において，御詠歌を歌ったり，寄付をするなどして慰問を行っている．	10月に社会福祉施設に慰問金を渡す．
	講演会	檀信徒や地域住民を対象として，講演会を行っている．	講演会を行っており，会長が年に1回，どのような内容で話すのかを決める．演題については，仏教や他のテーマについて扱う場合もある．また年に1回，総代会を対象とした研修会があり，これにも一般の檀家は参加可能である。	7月に伊那市内の寺院で賛助会を行う．檀家に集まってもらい，合同の先祖供養と講演会を行う．講師は住職や外部に勤めてもらったりする．導師は会長が行う
	その他	—	辰野社会福祉協議会から依頼され，毎年戦没者慰霊を行っている，担当する寺院は順番で決まっている。	隔年で，日帰り旅行を企画することがある．

（聞取り調査，および伊那谷仏教歳時記編集委員会（1988）より作成）

する大規模なものであり，御柱祭が実施される時期には，約200戸の氏子が総出で準備を行う．また，東京や名古屋など他都市に転居した元住民が祭に参加することもあるなど，神社における祭礼は地域社会と結びついており，転出した世帯と地域とをつなぎとめる役割を持っているといえる．

一方で，西春近地区においては祭礼における担い手不足，伝統的な技法・文化の継承，活動費用などの課題に直面している．これらの課題に対しては，御柱祭で用いる木材の伐採や馬曳きなど，専門的な技能を有する要員を地域内で雇うことができなくなったため，現在では地域外の業者などに委託する，個人宅で行われていた騎馬の出発式を公民館において共同出資で行うようにする，男子小学生に限定していた獅子方の踊り手を女子にも拡大する，など柔軟に対応してきた．また，西春近地区内で後継者を確保するための保存会が組織されており，地域住民が主体となり，小学校３年生から６年生を対象とした活動を行っている．この保存会の活動として，祭中に行われる囃子方で使用する楽器の製作や，その練習などが行われており，地域の子供たちが神社で行われる祭礼と関係をもつ機会となっている．

２）鉾持神社の活動変容と地域との関わり

伊那市高遠町西高遠に位置する鉾持神社は721年頃に創建され，1907年に近隣の神社を合祀し神楽殿が造営された．現在も大祭，中祭，小祭，諸祭など様々な祭礼が行われており（第３表），1970年代まではそれぞれ奉納神輿も行われていた．

現在の鉾持神社は，西高遠地区を中心に約400世帯の氏子を有しており，８名の氏子総代を選出し４年間の任期で神社を運営している．地域の氏子からは，総代のほかにも神社員を選定し，毎月の奉仕（境内の清掃活動）などを行っている．地区における人口減少による担い手の減少の影響から，現在では青年会の活動は行っていない．人口減少が特に深刻な高遠町においては，氏子の減少や高齢化によって現状維持も難しくなっているという．これら後継者の不足は鉾持神社で行われる祭礼にも影響を与えており，今後はどのようにし

第３表　鉾持神社で実施されている祭礼（2017年）

	活動	内容
1月	元旦祭	元日の参詣に合わせ，奉仕員がお札やお守りを授与する．
2月	節分祭	厄年，および氏子一同の健康を祈る．
	祈年祭	鉾持神社4大祭礼の一つであり，五穀豊穣を祈る．神社前の「鉾持町」にはだるま市や露天商が開かれるため，市内外から多くの観光客が訪れている。商工会や観光協会などと協力して準備を行う．
3月		
4月	例大祭	旧藩政時代から実施されている大祭，古式に則って行われ，祭礼中には高遠囃子や発輿が実施される．
5月		
6月	大祓祭式	元旦から6月までの半年間における氏子の健全を感謝する行事．合わせて神札やだるま，破魔矢を祓い清め焼納する「焼納祭」が実施される．
7月		
8月		
9月	合併祭	明治期の鉾持神社の合併に伴い実施．五穀豊穣・家内安全を祈願する．夜間は商店街に提灯が献燈される．祭礼や囃子が町内を単位にして行われる．
10月		
11月	七五三	幼童の健全な育成を祈念する．
	新嘗祭	新穀感謝祭の祝日にあわせ実施．
12月	大祓祭式	7月から年磨圧までにおける，氏子の健全を感謝する行事．合わせて神札やだるま，破魔矢を祓い清め焼納する「焼納祭」が実施される．

（聞取り調査，および鉾持神社提供資料より作成）

て地域における神社の信仰を高め，どうのようにして祭礼を維持していくかが課題となっている．

９月に行われる灯篭祭は，かつては氏子１世帯ごとが灯篭を掲げていたが，現在では近隣の高遠商店街の加盟店のみが灯篭を掲げている．また，11月に行う七五三や新嘗祭においても参加者や担い手が減少しており，奉納した米を炊さんする作業を，2007年頃以降は担い手の不足から専門の業者に委託するようになった．また，かつては祭礼が行われる時期には，親族が高遠町に集い，親族全体で祭礼に参加していたが，現在ではそのようなこともみられなくなっている．

これらの担い手不足に対応して，氏子の居住地域に応じて組織される「町内」と呼ばれる組織の合同を行い，祭礼の運営者の確保を行ってきた．また，祭礼中に「高遠囃子」とよばれる囃子を行う際にも，高遠囃子保存会などの伝統継承を目的とした有志団体や，高遠小学校の小学生で構成される「高遠小学校お囃子クラブ」などの演奏グループの参加を受け入れている．以上のように，祭礼を維持していく際の課題に対しては，外部に一部作業を委託することや，担い手として様々な団体の参加を受け入れるなどして，祭礼の維持が図られてきたといえる．

Ⅲ－３　キリスト教教会

現在，伊那市内においては，カトリック，プロテスタント諸教会合わせ８つのキリスト教施設が立地している．そのうちの５教会について，設立経緯や活動について聞取り調査を行った（第４表）．

５つの教会のうち，４つは戦後の伝道によって設立されている．終戦直後から1960年代までは，米国の影響下で全国的に多くのキリスト教教会が設置されており（川田，1989），伊那市においてもＣ教会など米国の伝道団にルーツをもつ教会が設立されている．主日（日曜日）の礼拝に参加する信徒（現住陪餐会員）は，各教会20人から50人程度であり，Ｂ教会のみ100人を超えている．Ｂ教会においては，外国人を対象にした英語・タガログ語でのミサも実施されており，フィリピンやポルトガル出身の信徒も多く訪れるため，100人

第４表　キリスト教教会の概要と主な活動

施設名	発足年	設立経緯	信徒数（概算）礼拝参加	信徒数（概算）名簿上	信徒の主な居住地	活動	頻度/日程	内容
Ａ教会	1884年	明治期に松本地域から伝道が行われた。1941年から現名称で活動。	20人	—	伊那市，箕輪町，駒ケ根市，辰野町	日曜礼拝	週1回	
						婦人会	月1回	聖書の輪読や勉強会などを行う．
						教会学校	—	現在の参加者は1人である．
						特別伝道集会	年1回	コンサートや講演会を企画し，非信徒も含め参加してもらっている．
Ｂ教会	1949年	戦後すぐに，伊那市内で家庭ミサが行われていた。土地を購入し教会と保育園を設立した。	100人	—	上伊那地域，木曽，塩尻	日曜礼拝	週1回	
						教会学校	日曜日	「あわなクラブ」という名前で教会学校を企画しており，旧会堂でレクリエーションをした後，礼拝を行ったり食事会を行ったりする．
						ブドウの会	週1回	会長は1年任期であり，バザーの運営や復活祭の時の食事の用意，清掃などを行う．2人ずつで当番を組み，交代で行う．
						バザー	年1回	売上金を，海外の修道会や地域で障碍者支援を行っている団体に寄付している．毎年，400人程度が訪れる．
						聖書教室	—	ミサの福音朗読の間に，小学生10人程度を対象に聖書教室を行っている．
Ｃ教会	1958年	1956年に米国の宣教団体が伊那・高遠に伝道を行い，1958年に初代の牧師が就任した。1960年に現教団に加盟した。	30人	40人	伊那市，駒ケ根市，箕輪町，宮田村，南箕輪村	日曜礼拝	週1回	水曜日の昼にも礼拝を行っている．
						教会学校	—	「ジョイフレンズ」という名前で活動している．礼拝中に10分程度子供向けの講話を行う．また，紙芝居や歌唱を通じてキリスト教の歴史や教義について学習する．5人程度が参加している．
						子供会	—	レクリエーションやイベントの企画を行う．10人程度が参加している．
						勉強会	—	2011年から開始，社会教育や啓発の場として，外部から講師を招聘し非信徒も対象として様々なテーマで講演会を行っている．
						野外礼拝	不定期	礼拝を行った後，バーベキューなどのレクリエーションを行う．
						コンサート	2年に1度	講演会と1年おきに実施している．外部から講師を招聘して，キリスト教の歴史や，社会福祉などといったテーマについて講義を行う．参加者は50人程度である．
						講演会	2年に1度	コンサートと1年おきに実施している．
						全体集会・親睦会	—	駒ケ根の2教会，伊那の3教会で集会の機会を設けている．信徒・聖職者合わせて50人程度が参加している．
Ｄ教会	1976年	伊那で行われていた家庭集会の人数が増加したため，土地を購入し伝道所として設立された。1981年に牧師を置き教会として活動を始めた。	50人	100人	上伊那地域，飯田，飯島，中川，駒ケ根，箕輪	日曜礼拝	週1回	
						地区集会	—	信徒が家庭で集会を行う．伊那市の各地域に4つのグループがある．1グループあたりの参加者は5人から8人程度。他にも，10人程度で聖書勉強会を行っている．
						聖書を学ぶ会	月1回	聖書を12回で学ぶという趣旨で，1年単位で行っている．
						デイサービス	隔週金曜日	別館でボランティア活動を行っている．参加者は15人程度である．
						子供会	隔週土曜日	「ティーンズクラブ」という名前で活動を行っている．中高生で集まって，ゴスペルやギター，賛美歌を歌ったり聖書の分かち合い，食事会を行ったりする．
						託児活動	—	「デイリーチャージ」という名前で託児活動を行っており，行政からも登録を得ている．3歳以下の児童を預かり，その間に母親の勉強会などを行っている．
Ｅ教会	1989年	主任牧師の祖父母の住宅があり，改装して教会を設立した。	20人	50人	上伊那地域，南箕輪村，松本市，諏訪市	日曜礼拝	週1回	
						農業生産活動	—	農業を通して地域との交流を行っている．11月には収穫感謝祭を行う．収穫した野菜や米を，集落に配布したりする．
						ボランティア活動	—	長野五輪の頃から，老人介護施設や孤児院への寄付を行っている．養護学校にもボランティア活動を行っている．障害者への支援事業はNPO化し，独立した運営を行っている．
						牧師会	—	東京の教会から牧師が訪れ，近況や問題を話しあったりする．

（聞取り調査，および各教会提供資料より作成）

のうち半数は外国籍の信徒である．

５教会とも，信徒は主に上伊那地域に居住しているが，教会によっては礼拝の際に松本市や諏訪・木曽地域など比較的遠隔地から信徒が訪れるなど，比較的広範な地域から信徒が訪れている．また，名簿上の信徒の中には県外や海外など，さらに広範な範囲に居住する信徒も登録されている．主日礼拝（日曜礼拝）や水曜日の祈祷会などキリスト教における基本的な儀礼は共通して行われており，教会によっては聖書勉強会や教会学校などの宗教教育も小学生から中学生を対象に実施されている．これらの参加者は，各教会５人から15人である．

その他にも幅広い活動が行われており，信徒のみではなく地域住民を対象とした活動を展開しているものも含まれる．例えば，Ｅ教会は活動の一環として栽培した農作物を収穫祭の際に地域住民に配布している．Ｂ教会では地域住民に告知を行い，バザーを主催している（写真１）．また聞取りを行った教会のうち４教会は，キリスト教に関連する文化や歴史，社会問題に関する講演会（勉強会，特別伝道集会）やコンサートを企画しており，これらは信徒ではない地域住民にも開放して行われている．また，Ｂ教会やＣ教会においては，地域のサークル活動や福祉団体の会合に場所を提供するなどして地域社会との接点を持っている．

Ａ教会やＣ教会においては，ミサに参加する信徒は1960年代から70年代を中心に現在よりも多く，教会学校にも100人近い参加者がいた．一方で現在は礼拝や教会学校の参加者は徐々に減少しており，それらに伴い各教会の婦人会や青年会などの組織の中には，現在活動を休止しているものもある．教会側も，今後の課題として聖職者と信徒の両方の少子高齢化，および教会に訪れる信徒の減少をあげている．

写真１　Ｂ教会で実施されているバザー
（2017年９月 川添撮影）

Ⅲ－４　天理教分教会

伊那市内における天理教分教会のうち，旧高遠町に立地するＡ分教会，および旧伊那市内に立地するＢ分教会の２つに聞取り調査を行った．２つの教会はいずれも明治後期に設立されており，数十人の信徒が名簿に登録されている．月に一度行われる祭礼（月次祭）には，名簿に登録されている人数のうち半数程度が参加している．

２つの分教会とも，施設を地区の行事の会場や公民館の代わりとして貸し出すなど，地域における開かれた存在として宗教施設を活用している．またそれぞれの分教会においては，個別の宗教行事だけでなく，分教会の布教元である大教会や地域支部における活動も積極的に行われている．

天理教の地域支部の区分においては，伊那市内に所属するそれぞれの分教会は上伊那北支部及び上伊那南支部の２つの支部に所属している．天理教における地域支部は主に戦前に発足しており，上伊那南支部は伊那市南部から宮田村，駒ケ根市，飯島町，中川村に立地する分教会が所属しており，さらに細かい地域ごとに，３つの「組」と呼ばれる組織に分けられている．現在は14か所の分教会と３か所の布教所が所属している．上伊那北支部には伊那市北部および南箕輪村，箕輪町，辰野町に立地する19の分教会が加盟している．支部はさらに４つの組に分けられている．それぞれの支部で行われている主な活動をみると（第５表），支部単位での“ひのきしん”（天理教の精神に基づくボランティア活動）や陽気ぐらし講座（講演会）が行われており，いずれも地域住民や地域の社会福祉施設を対象に行われている．

第５表　天理教地域支部会における活動

		上伊那南支部	上伊那北支部
発足		1944年	1944年
加盟教会数		17	14
範囲		伊那市南部，宮田村，駒ケ根市，飯島町，中川村	伊那市北部，南箕輪村，箕輪町，辰野町
活動内容	講演会	3年に1回，非信徒も参加可能な講演会を支部で企画.	非信徒も参加可能な講演会（陽気ぐらし講座）を支部内の分教会で共催．日程を調整し，支部内の4か所の分教会で行うようにしている.
	ボランティア活動	年4回から5回程度，奉仕活動（ひのきしん活動）を社会福祉施設で行っている．参加者は50人程度である．また，さらに細かい組織である組ごとのひのきしん活動も実施されている.	ひのきしん活動を毎年12月に養護学校で実施している．清掃活動が中心であり，参加者は30人から40人程度.
	こどもおぢばがえりに関する活動	こどもおぢばがえり（児童の天理市への団参）の募集を合同で行っている．費用も一部，支部で負担している。	―
	布教活動	―	においがけ（布教活動）を9月に実施している。戸別訪問や街頭公演が中心となっており，年ごとに場所を変えて行っている。

（聞取り調査より作成）

天理教におけるひのきしん活動は，個別の分教会から全国一斉のものまで様々な規模で実施されており，支部単位のものは年数回程度行われている. いずれも参加者の募集は文書での通知のほか，支部から分教会に委託し行われており，参加者は40人程度である．主に上伊那地域に所在する福祉施設で清掃活動などが行われている．陽気ぐらし講座や講演会においては，いずれも支部が場所や講演者を準備するなどの運営を行っており，非信徒も対象として企画されている.

これらの活動における課題として，活動に参加する信者，とくに若年の信者が減少してきていることがある．そのため，各分教会や地域支部においては，信徒世帯における後継者の育成を重要視している.

Ⅳ　地方都市における宗教施設のもつ社会的役割

Ⅳ章においては，宗教施設が地域社会の変化に対応しどのようにしてその活動を維持させてきたのかについて考察を行う．その際には，Ⅳ－１で，伝統宗教であり伊那市内にも多くの宗教施設を有する仏教寺院および神社について，またⅣ－２で比較的新しく地域に流入したキリスト教教会，および天理教分教会についてそれぞれ検討する.

Ⅳ－１　地域社会とのかかわりからみる仏教寺院，神社の活動の変化

明治期以前から地域に浸透し現地の地縁組織と結びついてきた仏教寺院や神社は，現在も過疎化が進む山間部や農村地域にも多く立地している．前章で示したように伊那市における各宗教施設・団体においては，少子高齢化や人口流出，また若年層が宗教活動と距離を置くいわゆる「宗教離れ」

による影響が意識されており，また活動の変化においても様々な程度で影響がみられる．特に，神社や仏教寺院は伊那市内に多くの宗教施設を有しており，近年に至るまで地域社会の変化に対応を迫られてきた．

仏教寺院は多くの世帯にとって，家族単位における信仰の中心となっている．仏教寺院ごとの活動をみると，護寺会（壇信徒会）や婦人会などが戦後になって組織されており，住職と協同して宗教行事や社会的な活動が行われてきた．一方で，聞取りをおこなった寺院によっては，地域社会の少子高齢化や檀信徒の減少に危機感を抱く住職も存在している．寺檀関係の衰退が危惧されるなかで，仏教寺院では歳時記に基づく法要などの宗教行事だけでなく，講話や茶話会などの活動を通じ，檀家にとっての社会的な拠点の一つとして寺院を位置づけ，檀信徒と寺院の関係が維持されるよう活動を展開している．

また，仏教寺院の地域組織である仏教会においても，講演会や福祉施設における慰問などが継続して行われている．このことからも，檀家・非檀家に関わらず寺院に訪れやすい環境，もしくは仏教とかかわりを持つことができるような環境づくりが重視されてきた．

近代以前から地域における信仰の中心となってきた神社においては，現在でも祭礼を通じた地域社会との関わりを重要視し，地域住民を担い手として祭礼を行ってきた．しかし，氏子や参拝者の減少，地域社会における少子高齢化は神社の活動にも影響を与えた．代表的な課題として，実際の祭礼における担い手の減少があげられる．聞取りを行った２神社とも，馬曳などの専門的な技能を持つ氏子や，祭礼中に行われる囃子や炊さんなど準備や運営に携わる氏子が減少している．これらの課題に対しては，他地域の専門家や業者への委託や，募集枠の拡大など，いずれの神社も祭礼の存続のため様々な対応を行ってきた．

以上，寺院や神社においては，宗教施設を拠点として実施される祭礼や法要などの年中行事を基点とし，地域住民である檀信徒や氏子の社会関係を維持する役割を重視しており，信徒の高齢化や若年層の減少などの変化に直面しつつも，それらの役割を意識した活動を現在まで維持し続けてきたといえる．

また，特に神社における祭礼は，地域住民のアイデンティティを構成するものと認識されており，神社では祭礼の維持・継続のため地域社会の変化に柔軟に対応してきた．

Ⅳ－２　地域社会とのかかわりからみるキリスト教教会，天理教分教会の活動の変化

主に明治期と戦後期に地域において伝道が行われたキリスト教教会や，明治後期から布教が行われ設立された天理教分教会においては，仏教寺院や神社と比較して，日常的な礼拝や年中行事のいずれもより広範な範囲から信徒が訪れている．また，日常的な礼拝を主軸とした宗教活動が現在まで維持されていることが分かった．キリスト教教会や天理教分教会においては，礼拝や参拝の際には上伊那地域以外の木曽地域や松本・塩尻からも信徒が訪れており，日常礼拝や月次祭など定日の宗教行事には数十人程度が参加している．

一方で，少子高齢化や若年世代の宗教参加の減少による宗教集団の変化は活動にも影響を与えている．キリスト教教会における聖書研究会や教会学校の参加者の減少や，各施設における，青年会や婦人会の縮小はその代表的なものであるといえる．このような状況において，教会・分教会においては家庭レベルにおける世代間の信仰の継承を課題としてあげている．

また，キリスト教教会では，地域社会と宗教施設との接点として，仏教寺院でも実施されている講演会などに加え，バザーやコンサート，地域の文化・福祉団体に対する施設の提供など，様々な形で地域社会との接点を構築している．また天理教分教会や支部会においても，ボランティア活動（ひのきしん）や講演会（陽気ぐらし講座）を実施するなど，多くの社会的活動を通じて将来の地域社会との信頼関係を意識し，宗教施設の存在意義を模索し続けているといえる．

Ⅴ おわりに

本研究は，長野県伊那市における宗教施設の活動と維持・存続について，人口減少・高齢化に伴う地域社会の変化との関わりから検討した．

Ⅱ章においては，伊那市における４宗教の展開について，先行研究および統計資料などから整理した．その結果，伊那市内においては全国的な傾向と同じく，神社と仏教寺院が卓越しており，神社の中では諏訪神社の割合が高く，仏教寺院においては長野県全体の傾向と同じく曹洞宗寺院が過半数を占めている．また，キリスト教と天理教も都市部を中心に浸透しており，それぞれ明治期以降に布教が進んだ．

Ⅲ章およびⅣ章においては，聞取り調査の結果から現在の宗教施設の活動や，置かれた状況について整理し，それらの社会的役割について検討を行った．仏教寺院や神社の檀家・氏子は大多数の世帯が施設の周辺に分布し，キリスト教教会や天理教分教会は，日常的な礼拝においても広範囲から信徒が訪れている．４宗教とも，主に信徒など宗教施設内を対象とした活動と，地域住民や非信徒など宗教施設外も対象とした活動が展開されており，信徒の社会関係の維持と地域社会に対する宗教施設の働きかけの２つが重視されていることがわかった．

本研究においては，上伊那地域における代表的な宗教施設として寺院，神社，キリスト教教会，天理教分教会を選定し，これらの施設で実施されている宗教活動が，信徒や宗教者，地域社会の変化とどのように関係しその維持を図ってきたのかについて検討を行った．先行研究においては，宗教施設が地域社会の変化と相互に影響を与えつつ，その維持を図ってきたことが指摘されていたが，本研究においても個別の宗教施設において，地域社会の変化に柔軟に対応した宗教活動が実施されてきたことが分かった．

例えば地域社会と深い関わりを有してきた神社においては，少子高齢化による担い手の減少に対して，地域外への委託や，担い手の拡大など，２つの神社とも活動存続のため対応を行ってきた．また，キリスト教教会や天理教分教会においては，講演会やボランティア活動などを企画し，信徒の減少や高齢化といった状況下において地域社会との関係を維持し続けている．以上のような宗教活動を通じて，宗教施設は地域コミュニティの拠点や，社会関係の維持の機能を果たしてきたことが明らかとなった．

一方で，地域社会における人口減少･高齢化や，ライフスタイルの変化による宗教施設への訪問者の減少に危機感を抱く宗教者も存在するなど，いずれの宗教施設においても，そのあり方が常に模索され続けている．地方都市における宗教施設の維持においては，今後も後継者や信者の不足により，活動内容の変更や運営方針の転換に迫られることも考えられる（櫻井，2017）．本稿では宗教施設の活動に着目し考察を行ったが，地域社会全体を構成する様々な要素の中で宗教組織がどのような役割を担っているのかについて解明する際には，今後は宗教施設に所属する信者一人ひとりの社会経済的状況や，他の地域組織との関係性についても検討が加えられるべきであろう．

本研究の実施において，上伊那地域の仏教寺院，神社，キリスト教教会，天理教分教会の皆様，および伊那市社会福祉協議会の皆様にはご協力を賜りました．厚く御礼申し上げます．

［注］

1）伊那市保健福祉部高齢者福祉課（2015）:『伊那市高齢者イーナプラン』伊那市保健福祉部高齢者福祉課.より.

2）『長野県所轄宗教法人名簿』は長野県ホームページにおいて公表されているもの（https://www.pref.nagano.lg.jp/shigaku-shin/kensei/shichoson/hojin/shukyo/ichiran.html，最終閲覧日2018年９月27日）を用いた.

3）『長野県統計書』は1972年以降のものを参考とした.

4）諸教とは，神道系，仏教系，キリスト教系のそのいずれとも特定しえない教団をさす．天理教は諸教の１つとして分類している.

［文　献］

伊那市史編纂委員会（1982）:『伊那市史：現代編』．伊那市史刊行会.

伊那谷仏教歳時記編集委員会（1988）:『伊那谷の仏教歳時記』．伊那毎日新聞社.

卯田卓矢・益田理広・金 錦・細谷美紀・久保倫子・松井圭介（2013）：入善町道市地区における浄土真宗の講組織の構造と維持要因：地区の社会構造に着目して．人文地理学研究，**33**，67-86.

上伊那誌編纂会（1967）:『上伊那誌：現代社会篇』．上伊那誌刊行会.

川田 力（1989）：日本におけるプロテスタント・キリスト教会の立地過程－明治期・関東地方を中心として－．地理科学，**44**，207-222.

阪野祐介（2008）：神戸におけるカトリックの展開－宗教地理学の研究視点に関する検討を通して－．兵庫地理，**53**，3-12.

櫻井義秀（2017）:『人口減少時代の宗教文化論－宗教は人を幸せにするか』北海道大学出版会.

櫻井義秀・濱田陽編（2012）:『アジアの宗教とソーシャル・キャピタル』，明石書店.

早田一郎（2013）：天理教伝道史の諸相（20）：甲信越の天理教．グローカル天理，**14**(8)，2.

竹村一男（2000）：末日聖徒イエス・キリスト教会受容の地域的差異に関する研究－山形・富山地域における事例を中心に－．地理学評論，**73A**，182-198.

塚田博之（2000）：明治前期信州上伊那地方におけるキリスト教会．信濃，**52**，641-660.

塚田博之（2001）：明治初期信州高遠とキリスト教．信濃，**53**，75-95.

塚田博之（2004）：明治期キリスト教と地域社会－1886（明治19）年５月の信州高遠を中心に－．信濃，**56**，239-252.

中島正利（2001）：信濃における曹洞宗の普及と不況について－１－．信濃，**53**，581-588.

藤村健一（2001）：奥熊野の一村落における宗教の多様性とその要因．歴史地理学，**43**(5)，21-37.

藤村健一（2005）：宗教施設と社会集団との相互関係とその変化－福井県嶺北の寺院・道場の事例から－．地理学評論，**78**(6)，369-386.

益田理広・新井悠司・川口志のぶ・欒 雅蓉（2015）：佐久市中心部における仏教寺院の機能変遷－地域文化の拠点としての寺院－．地域研究年報，**37**，61-80.

松井圭介（1993）：新潟県の宗教空間－寺院・神社・教会の分布を通して－．地域調査報告，**15**，143-152.

森岡清美（1975）:『現代社会の民衆と宗教』．評論社.